

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月 6日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0893100016
法人名	有限会社 さくら園
事業所名	グループホーム ほほえみ
所在地 (電話番号)	茨城県東茨城郡茨城町奥谷2160 (電話)029-219-0700

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年10月5日	評価確定日	平成20年2月5日

## 【情報提供票より】(平成 19年 8月 31日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 19 年 1 月 13 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7人, 非常勤 0人, 常勤換算 4.2人	

## (2)建物概要

建物形態	併設/ <del>単独</del>	<del>新築</del> /改築
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷 金	有( 200,000 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	450 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

## (4)利用者の概要

利用者人数	2 名	男性	1 名	女性	1 名	
要介護1		名	要介護2	2	名	
要介護3		名	要介護4		名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	80 歳	最低	77 歳	最高	83 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	山王台病院・桜丘病院・いばらき診療所こづつ・三浦胃腸外科医院・松山歯科医院
---------	---------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、緑に囲まれた閑静な地域に設置され、正面には田園が広がっており、見晴らしの良さや風薫る心地よさを体感できる。また、敷地内には用水路が走っているため、小川のせせらぎを聞くような落ち着きを感じることができる。隣にはデイサービスセンターが設置され、利用者同士の交流も図られている。ただ、開設して間もないため、利用者の生活感や、地域との交流等を感じるには今少しの時間を要すると思われる。
---

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	ホーム開設後初の評価であったため、具体的な評価の活用は今後の取り組みとして整理されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員で話し合い、自らの業務の「気づき」や「ふりかえり」の機会として活用されることを期待したい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、出席が予定されていた者の体調不良等で延期され、未開催になっている。今後、ホームのサービスの質の向上に資する運営推進会議の活用が期待される。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	現在のところ、要望や苦情はあがっていない。今後、そのような時は、職員会議の議案として対応し、解決に向けて取り組む予定である。また、家族からの意見や要望を募るアンケートやご意見箱の設置についての検討が求められる。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホーム開設時に、周辺地区の老人会等を招いてホームの機能について説明・紹介を行っている。また、ホームの敷地内を流れる用水路の清掃活動を行なっている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	経営者は、ホーム開設時に際し、他のホームを見学したり文献を参考にして学びを得たところから法人の理念を作りあげた。	<input type="radio"/>	職員全体でホームの理念を再検討した上で、その内容を利用者にも目に触れることができるようにリビングなどに掲示することが望ましい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の職員ミーティングの時に読み合わせを行っている。	<input type="radio"/>	常に理念を共有できるよう、日頃から職員間で理念をもとに日々の業務のふりかえりに努めることを期待したい。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム開設時に、周辺地区の老人会等を招いてホームの機能について説明・紹介を行っている。また、ホームの敷地内を流れる用水路の清掃活動を行なっている。		ホーム開設時のみでなく、継続した地域住民への働きかけを期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム開設後初の評価であったため、具体的な評価の活用は今後の取り組みとして整理されている。	<input type="radio"/>	自己評価は全職員で話し合い、自らの業務の「気づき」や「ふりかえり」の機会として活用されることを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の参加メンバーは選出されているが、メンバーの体調不良等で延期され、未開催になっている。		今後早急に延期となった会議開催、運営をされたい。

茨城県 グループホームほほえみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月、利用実績の報告を町役場へ提出している。また、町役場担当課からの依頼を受け、身元不明の方をホームで預かることも行っていた。		市町村との具体的な連携については、ホーム側から町役場へ通い、情報収集等を進める中で構築されることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族もまた地域に住む住民であるため、頻繁にある面会時にその都度口頭報告を行っている。また、小口現金出納の収支報告も定期的に行っている。		利用者のホームでの日常がわかる「ホーム便り」のような広報物を発行することを検討されたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在のところ、要望や苦情はあがっていない。今後、そのような時は、職員会議の議案として対応し、解決に向けて取り組む予定である。	○	家族からの意見や要望を募るアンケートやご意見箱の設置について検討し、家族が意見を言いやすいホームの実現を目指していただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設して間もないため、職員の離職事例が少ない。		職員が異動もしくは退職する際には、家族にも文書等で報告する仕組みを準備されたい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	決して高い頻度とは言えないが、職員の研修参加に対し、管理者は配慮を行っている。		研修等に参加した職員が、他の職員に内容を報告する方法や、研修記録を整備することが望ましい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	茨城県グループホーム連絡協議会に加入しており、さらに町内の他のグループホームとも連絡などを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	「体験入居」や「お試し利用」などが提供され、利用者が円滑に入居開始できるような配慮がなされている。		体験入居についてのきちんとしたルールを設定し、利用者および家族が安心して上で利用開始となれるよう、諸整備を期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理場面で味付けの方法を利用者から教えてもらうなど、利用者の人生経験を尊重する姿勢が職員から感じることができた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホーム独自のアセスメントシートが整備され、利用者の「思い」や生活歴の把握に取り組んでいた。	○	利用者や家族から得た情報が、もれなくシートに書き込まれるようにすることが望ましい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向がそのまま記載されている個別の介護計画が作成されていた。	○	介護計画の保管方法について再検討を行い、情報の漏洩に注意した保管のあり方について取り組んでいただきたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	事例は少ないものの、介護計画の見直しに取り組んでいる状況を確認することができた。	○	定期的に全職員で介護計画の見直しができるよう、ホームにとって使いやすいモニタリングシートを検討するなど、今後の取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族での対応が困難な場合、通院の付添サービスなどを実施している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームのすぐ近くにある医療機関と、日頃から連携が図られている。		受診した際の申し送りを徹底し、全ての職員が利用者の医療情報を把握できることが望ましい。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開設されて間もないため、利用者の障害等の重度化の事例がない。マニュアル作成については検討中であるとのこと。	○	今後に備え、対応マニュアルを整備することが求められる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉かけはとてども丁寧で、利用者の意向や誇りを尊重した対応が心掛けていた。	○	個人情報の具体的な取り扱いについて、利用者や家族から同意を得る仕組みが必要と思われる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者の意向を尊重した対応に心掛け、利用者もゆったりと自分のペースの中で生活を送っていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立づくりは、利用者ひとりひとりの嗜好を調査し、また利用者の注文や希望を受けて作成をしている。		食事時間の職員配置を再検討し、利用者とともに食事を楽しめるよう取り組んでいただきたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は特に設定せず、利用者は入浴したいときにいつでも入れるようになされている。夕方入浴される方への対応も行なわれている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は食器洗いや洗濯、料理の味見などの役割を担っていただく支援を行っている。		利用者が自発的に役割をもてるよう、職員からの働きかけに期待していきたい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブや買い物など、さまざまな外出支援が取り組まれている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間のみ防犯のため施錠している。調査中、玄関はずっと開放されていた。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	総合防災訓練が実施されており、実施計画書と実施報告書を確認することができた。		大規模災害に備え、食料や医療品などの備蓄の整備および保管について、今後検討されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立のカロリーが計算され、日々の記録の中で摂取量が確認できるよう表示されていた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開設されて間もないため、リビング全体があっさりとした、さながら新築住宅と同様の雰囲気であった。	○	利用者の見当識への配慮として、カレンダーなどの掲示があると良いと思われる。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者がそれぞれに持ち込んだ生活用品であふれ、利用者の個性が感じられる居室となっている。		